ロンドン大学衛生熱帯医学大学院
修士課程
朝倉利晃
2022年9月

ロータリー2510地区月例報告 Vol.1

機上でアナウンスが流れ，到着の知らせが伝えられる．ドーハを経由した計18時間15分のフライトを終え英国の土地に降り立った．初めての英国に胸は高鳴る．税関で入国手続きがあるため，頭の中で使う英語を整える．e-gateなるものを通るように言われるが機械が上手く働かない．別窓口に誘導され英国に来る目的を軽い調子で聞かれた．留学，とだけ無愛想に答えて通る．すると，駅やバスの案内が見えてくる．税関を気づいたら通り越し，パスポートのスタンプが押されないことに戸惑いを覚える．後に調べるとそういった手続きは日本人に対しては免除されているよう．カップラーメンは英国に持ち込めないと日本のサイトで読んだのにも関わらず，チェックなど存在しないことに拍子抜けする．大量のカップラーメン持ってくれば良かったと後悔を覚える．空港に入ってSIMカードが上手く機能するか確認，家族や関係各者に無事到着した旨を連絡．よし，終わり．顔を上げ，新たな土地での生活に期待を馳せて歩み始める．

これが僕の英国到着の場面．異国の土地で特別な感情がに包まれるかと思ったが，異国でのチケット購入や電車の乗り方に苦戦したり，電車内で物乞いの人に遭遇したり，仮住まいの家の場所を確認したりしていると感傷に浸る暇なくロンドン中心部に到着した．ロンドンの第一印象は臭い，本当に臭い．生ゴミ，下水道，タバコ，欧米特有の香水の匂いが結託して襲いかかってくる様な匂い．1, 2週間経つと匂いを感じなくなったが，これは僕の鼻が壊れたか，たまたま到着日のロンドンが臭かったのか未だに分からない．

仮住まいの家に住みながら悪夢と囁かれるロンドンの家探し．今年度は大学の貸家探しのヘルプサービスグループが特に部屋探しが難しいと認めるほどの難易度．難しさの原因は2つ．コロナ後の影響で家賃が急激に上がっている．家賃がとても高いのに家のクオリティは低いという現象が発生する．具体的には家賃(光熱費込のシェアルーム)が月10万前後だとお湯が出ない家が大半．もう一つは高い競争率だ．良い家は広告が出るその当日にメッセージを送らないと部屋の内覧すら出来ず，かつ，即決しないと次の日には部屋が他の人に契約されているというほどの競争率だ．結局家探しに10日間かけて，良い家が見つかったときは安堵で気が抜けて泣きそうになっていた．僕の家主が言うには，僕が契約した物件の広告は，広告が出てから1日で160件のメッセージが届いたそう．困難な状況に発揮される僕の運，この競争率を突破出来た理由の一つは日本人であることだったため，日本人の評判の良さに感謝だ．

家が決まった次の日に荷物を越して一安心．一夜明けるとパソコンが充電できなくなり，電池が無くなった．急いで修理に出して替えのPCを受け取って，そのPCで学校が始まった．修理から戻ってきたPCを起動するとOSのアップデート中に電池が消えたせいかOSも破損していた．天を見上げて頭を抱える．幸いPC内のデータの救出に成功し，PCの設定も全てやり直して，もとの状況に復旧することが出来た．水星逆行の期間には家などの契約は上手くいかず，PCなど電子機器が壊れるというが，粗方なぞっている状態だ．人生万事塞翁が馬，これからの学校生活は良くなるに違いない．

図1. 女王の棺を見送りに来た人々.

家探しの期間には，エリザベス女王の国葬も行われた．女王のために集まった人は数しれず (図1). そのため人が多すぎて女王の棺が運ばれる車もほと

んど見れなかった．印象的だったのは，女王のための黙想の後に，すぐに拍手が起きたことだ．日本の弔事と違って，キリスト教の影響か悲しみを引き摺るような雰囲気ではなかった．

英国に住み始めると，生活の多くの場面で個人主義を感じられる．例えば，交通信号が身近な例だ．日本人は赤信号をよく守ると言われる．一方，英国だと，青は安全に渡れる，赤は気を付けて渡れるくらいの意味合いに思える．これは個人単位で見たときに自分がいかに早く目的地に到着出来るかを優先させた結果だと思う．赤信号でも渡る人が多すぎるせいで，赤信号にもかかわらず車が進めずクラクションを鳴らされる姿は時々見られる．

個人主義だからこそ個人の尊重が重んじられる．もちろん僕の大学のLSHTMにもその哲学は反映されている．最初の準備週間の中でも個人を尊重することに関する講義(Equity, Diversity & Inclusion)が1番初めに行われた．印象的だったのはEqualityとEquityという用語がしっかり区別されていることだ．Equalityはどんな人であっても公平に対応することを指すがEquityは個々の状況を考慮して結果が等しく達成出来るように対応することをさす (図2)．日本語だとEqualityは平等，Equityは公平性と訳されるようだが，厳密に分けて使っている人は少ないし，日本の社会はまだまだEquityよりもEqualityに重点が置かれているように思う．

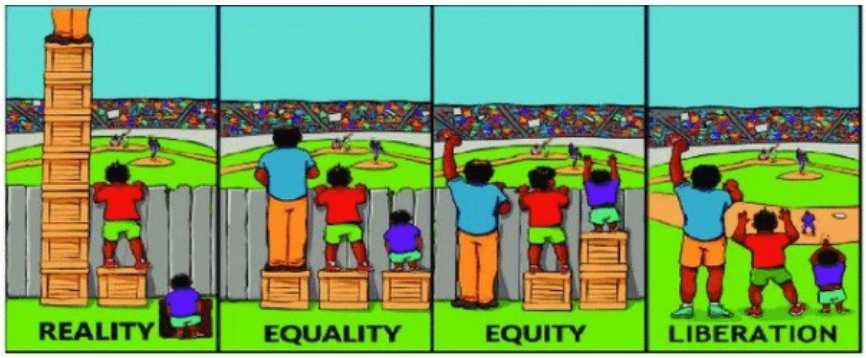

図2. EqualityとEquityの違いの例示.

性別面での平等と公平性も英国ではより進んでいるように思える．僕のコースは40人強の学生で構成されているが女性が占める割合は約8割だ．今年度は特に隔たっているというが日本のほとんどの学部で8割が女性のコースはあまりないだろう．公衆衛生は女性が多いとよく言われるのを追証するかのように，LSHTMの他のコースでも女性の割合は大体6~7割だ．しかし，僕が話に聞く限りではUCLもOxfordも大体，学部の男女比率は1対1らしい．

本格的に授業は始まっていないが，時間割を見るだけで日本とは全く違う教育理念や哲学の下で授業が構成されていることを感じ取れ，明日からの授業が楽しみである．